

立川市の昭和第一学園高校自動車研究部が、栃木県で6月に開かれた自作エコカーの大会で3位入賞した。部員はわずか5人。10月の全国大会で16年ぶりの表彰台を目指す。

(岡本太)

昭和第一学園高の自動車研究部

大会はホンダが主催する「エコマイレレッジチャレンジ」の一環。参加チームは全長3・5メートル以内の自作エコカー1で、コースを規定の回数で周回させ、燃費性能を競う。

昭和第一学園高校の自動車研究部は6月21日、栃木県のモビリティリゾートもてぎで開かれた「もてぎ大会」に2台で出場。1台が1コース10周(約14・7キロ)を走る高校生部門で、1台あたり97・9キロの高燃費を記録し、14台中3位に入った。もう1台は途中でリタイヤだった。

昭和第一学園高校は前身が工業高校で、自動車研究部も

次は全国大会表彰狙う

過去に全国優勝経験のある強豪。しかし工学科がの廃止などを背景に部員数は減り、現在は3年生3人、1年生2人の5人のみとなっている。

5人は放課後や土日曜に自作エコカーの改良を重ね、少しでも燃費を上げるため、エンジンやギアの調整、車体の軽量化などに取り組んでいる。

部長で3年の米山優太さん(18)は「もてぎ大会では暑さの中で、厳しい戦いだった。決して調子は良くない中で、よく走りきってくれた」と大会を振り返る。

次戦はより多くのチームが集まる10月の全国大会。3位に入れば2009年以来16年ぶり、優勝すれば04年以来21年ぶりの快挙となる。

ドライバーを務める3年の古田悠貴さん(17)は「みんなで作ってきた車で、一つでも順位を上げる」と意気込む。もう一人のドライバー、3年大島詮和さん(18)も「まずは完走。2台そろって良い成績を出したい」と話す。

6月の大会で3位入賞した昭和第一学園自動車研究部の部員5人。立川市で



部員5人でエコカー大会3位